
足立としゆき夢だより
【第 193 号】 R3.11.30

皆さん、こんにちは。
足立としゆきです。

東京でも、冬の寒さを身に
しみて感じるようになって
まいりましたが、皆様には、
いかがお過ごしでしょうか？



11月19日(金)、政府は「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」を閣議決定しました。

この経済対策は、岸田新内閣が10月8日(金)の所信表明演説でその策定を表明していたもので、財政支出約55.7兆円、事業規模は約78.9兆円で、GDPの下支え・押し上げ効果を5.6%と見込んでいます。

経済対策の内容は(1)新型コロナウイルス感染症の拡大防止、(2)「ウィズコロナ」下での社会経済活動再開と次なる危機への備え、(3)未来社会を切り拓く「新しい資本主義」の起動、(4)防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保、の4つの柱で構成されています。

4つめの柱の「防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保」は、所信表明演説の「重要インフラの整備などの国家的課題に計画的に取り組めます。老朽化対策を含め、防災・減災、国土強靱化の強化とともに、高速道路、新幹線など交通物流インフラの整備を推進します」とのご発言を踏まえ盛り込まれたもので、大雨や地震などの災害への備えを強化するとともに、東日本大震災からの復興に引き続き全力で取り組むこととしています。

これを受けて、11月26日(金)、令和3年度補正予算が閣議決定されまし

た。

公共事業予算は、総額で約 2 兆円程度、うち国土強靱化が 1 兆 2,500 億円程度(うち国土交通省 1 兆 213 億円)、生産性向上等が 3,500 億円程度(うち国土交通省 2,339 億円)、災害復旧等が 4,000 億円程度(うち国土交通省 3,154 億円)です。

国土強靱化に加え、生産性の向上として八街の通学路の事故を踏まえた対策などが盛り込まれたのが、防災・減災、国土強靱化以外にも補正予算が計上されたこととなり、とても大きいことと考えています。

この結果、おおむね令和 3 年度の初めと同程度予算が、令和 4 年度の初めにも確保できる見通しとなりましたので、その点については、大きな成果であったと思います。

なお、複数年度にわたる事業に対して、「事業加速円滑化国債」として、補正予算からスタート・支出できる国債を設定することも補正予算には盛り込まれました。

岸田総理のおっしゃっておられる「財政単年度主義の弊害の是正」につながる重要な取り組みであり、大いに評価していただきたいと思います。

なお、非公共事業の補正予算として、高速道路の大口多頻度割引の最大割引率を 40%から 50%に拡充する措置を令和 5 年 3 月末迄継続することも決定となりました。物流を担う自動車運送事業者の皆様の期待にも応えることができたのではないかと考えています。

その他、最近の動向は次の通りです。

【自民党の動き】

11 月 9 日(火)、日本建設業連合会の宮本会長、押味副会長、蓮輪副会長、山本事務総長から自民党幹部(幹事長、総務会長、政調会長)に対して要望が行われ、10 日(水)には、全国建設業協会の奥村会長、山崎専務、若山常務から自民党幹部(幹事長、総務会長、政調会長)への補正予算の要望が行われ、同席しました。